プレゼンテーション活動を取り入れ，思考力・判断力・表現力を育む英語授業

福澤　健

2016 年度の広島大学附属福山中・高等学校（以下，当校）教育研究会において，「プレゼンテーション活動を取り入れ，思考力・判断力・表現力を育む英語授業」というテーマで公開授業を行った。本校は SGH 指定校として，2015 年度より「グローバルリーダー・地方創生リーダーに求められる能力・態度の育成」という研究主題のもと研究開発を行っているが，それらの能力や態度の「基盤」のようなものが中学校での英語授業においても育成できるのではないかと思い，2016 年度の当校中学校２年生を対象として，プレゼンテーション活動を含む単元をデザインし，実践を行った。また，その単元内の１時間で公開授業を行い，表現力を育む授業の在り方を提案した。いただいた指導助言や自らの振り返り，今後の課題等も含めて，本稿では実践報告を行う。

１．はじめに

思考力・判断力・表現力という言葉を筆者が強く意識するようなったのは，恥ずかしながら当校に赴任した初年度の教育研究会を経てからである。これまで，私立の中高一貫校と福岡県の公立高校で勤務をしてきたが，当時は受験指導に力を入れた，いわゆる「講義型」の授業がほとんどであった。中学校における英語授業の経験も浅く，当校で 2015 年度に中学校１年生を担当したときには，当然のごとく毎日が試行錯誤の連続となった。

本稿では，「プレゼンテーション活動を取り入れ，思考力・判断力・表現力を育む英語授業」を提案するとともに，そのような単元を考えるに至った経緯として，中学１年生に対する授業実践の一部についても報告する。同時に，英語学習の中で「話すこと」に対する捉え方の変化についても考察を行う。

２．スピーチ活動の実践と課題

2015 年度の４月に，中学１年生に対して英語学習に関する調査を行った。その結果から，英語を聞いたり話したりすることに対する興味・関心が高く，将来的にも外国の人と英語で話をしたいという思いを抱いている生徒が多いことがわかった（表１）。

Q. 英語を使って将来一番したいことを選んでください。

英語の本を読む（専門的な本を含む）	13.9%
外国の人と話す（仕事も含む）	74.5%
手紙やお話を書く	2.5%
音楽を聞く	3.3%
ドラマや映画を見る	4.1%
歌を歌う	1.6%

表１　　（回答数 122 名）

４月以降の生徒の４技能への興味・関心の変化を表２に示している。

Q. 英語学習で何が一番楽しそうだ（楽しい）と思いますか。

	4 月	5 月	7 月	9 月	12 月
話や会話を読んで何についてのことなのか知ること。	24.6%	35.8%	28.1%	30.3%	39.5%
話や会話を聞いて何についてのことなのか知ること。	36.9%	38.3%	33.1%	23.8%	18.5%
自分のことやいろいろなことを書いて人に知らせること。	4.9%	4.2%	10.7%	6.6%	8.4%
自分のことやいろいろなことを話して人に知らせること。	**28.7%**	**10.8%**	**22.3%**	**23.8%**	**20.2%**
特には思いつかない。	4.9%	10.8%	5.8%	15.6%	13.4%
回答数	122 名	120 名	121 名	122 名	119 名

表２（対象：2015 年度１年生 122 名のうち，欠席の生徒を除く）

中間考査終了時点の５月には，話すことよりも，読むことや聞くことへの興味や関心が高くなった。これは，中間考査までは辞書指導や，英語の発音指導，定期考査へ向けて英文を書く上でのルールや文法等の指導重視し，会話活動は（おそらく小学校でも経験していたであろう）簡単な自己紹介や，教科書の内容に関するものにとどめた結果であると考えられる。

その後，ある程度語彙や文法的知識が増えてきたところで，クラス全体や小グループ（６，７人のグループ）の前に立って英語でのスピーチや Show & Tell を行う活動（写真１，２）に取り組んだ。

写真１：小グループでの Show & Tell　写真２：ペアで遠足についての発表

生徒は事前に提示されたテーマでスピーチ練習をして発表に臨むことになる。たくさんの場数を踏ませるために，おおよそ１ケ月に１回，新たなテーマで発表の順番が回ってくるようにした。

当初は英語で話すこと自体に興味・関心が高く，英語

ネイティブの ALT に英語が伝わる喜びもあり，それが７月と９月の調査で英語を話すことが一番楽しいと感じている生徒の割合が増えたことの要因であろう。

しかし，12 月初めに行った調査によると，話すことが一番楽しいいと感じる生徒の割合がやや減少し，20.2%となった。同時期に生徒に書かせたこれまでの発表活動の振り返りには，以下のような意見や感想があった。

Q1. 良い発表に必要なもの
・声の大きさ　・話し方に抑揚をつける　・視線を聴衆に向ける
・相手に良く伝わるようにはっきり発音する　・原稿を覚える
・物を指さしながら話す　・堂々とする　・速く話しすぎない

Q2. 発表活動をとして難しかったこと，困ったこと
・本番になると緊張して覚えたことを忘れてしまう。
・英語で発表となると，まずは文から考えなければならないし，発音や強弱にも気を付けなければならない。
・発音や文のつながり，声の大きさなど，たくさんのことを一度に気を付けることが意外と難しかった。
・なかなか聞き手に目線を向けることができなかった。
・このような機会があるのは非常に良いことだが，回数が多い上に，時期によっては十分な準備ができず，負担になる。

Q3. 発表活動全体を通しての感想
・英語は難しかったけど，達成感も得ることができた。
・皆の前で英語でスピーチをすることで，話す力が少しついた気がする。
・実際にネイティブの先生からの質問を受け，それを理解し，答えを返すことで少し自信がついた。
・(A)どうすれば伝わりやすく説明ができるかを考えて，リズムよくやらないといけないと思った。
・最初の発表はとても緊張して練習の成果がなかなか発揮できなかったけど，(B)３回目は，今までの反省をしっかり生かして発表できたと思います。
・（英語で話すことに関して）(C)もともとの考えがプラスだったので，あまり変わらなかった。

振り返りの全体を通して，多くの生徒が発表活動については肯定的にとらえ，自信や達成感を感じることができていることがわかる。一方で，Q1,2 に対する回答や，下線部(A)の記述から，話し方や，ジェスチャー，アイコンタクトといったデリバリースキルに課題を感じていることが見受けられる。

また，下線部(B)(C)の記述からは，発表活動にかなり慣れてきたことが読み取れる。したがって，達成感を得たり，課題が見えてきたりする一方で，継続して行ってきたスピーチ活動がややマンネリ化したために，表２で見られたように，話すことが一番楽しいと感じる生徒の割合がやや減少したのではないかと思われる。

さらには，波線部のように，発表の準備を負担に感じている生徒がいることもわかった。たくさん時間をかけて練習したスピーチが，一度きりの発表で終わってしまうというのも，生徒にとっては費用対効果が低く，負担を感じるのも無理はない。生徒が作ったスピーチ原稿を最大限に活用して表現力を向上させるような「費用対効果の高い」スピーチ活動を考えることも重要である。

以上のことから，１年生２学期までのスピーチの活動を通して，以下のような課題が見えてきた。

①覚えて発表を行うだけというマンネリ化を防ぐ
②デリバリースキルの向上
③費用対効果の高いスピーチ活動

これらの課題の中で，まず①の改善に取り組んだ。新たな試みとして，１年生の３月にパワーポイントで作成したスライドを用いたプレゼンテーション活動を行った。テーマは，Schools around the World とし，日本の学校と世界の学校を比較し，その違いについて発表を行うというものであった。これまでよりも難易度が高いテーマ設定や，パワーポイントでのスライド資料作成に対して，生徒は楽しそうに取り組んでいた。

事後に行った調査でも，４技能のうち「話すこと」が一番楽しいと感じる生徒の割合が 12 月の調査よりも増加していた。しかし，「一番」ではなく，複数回答可として「英語学習で何が楽しいと思いますか」という質問も行ったところ，「話すこと」が楽しいと感じる生徒は全体の 36%にとどまることがわかった（表３）。

Q. 英語学習で何が（一番）楽しいと思いますか。

	択一	複数回答
話や会話を読んで何についてのことなのか知ること。	41.2%	57.9%
話や会話を聞いて何についてのことなのか知ること。	22.8%	52.6%
自分のことやいろいろなことを書いて人に知らせること。	4.4%	22.8%
自分のことやいろいろなことを話して人に知らせること。	**23.7%**	**36.0%**
特には思いつかない。	7.9%	12.3%
回答数	114 名	114 名

表３（１年生３月実施）

これまでは，「一番楽しいもの」という択一式であったために曖昧になっていたが，３月の調査で，半数を超える生徒が「話すこと」の活動を楽しめていないという事が露呈した。その原因に頭を悩ませながら生徒の振り返りやワークシートなどを眺めていると，ある考えに至った。それは，これまでの「話すこと」の活動には，「何のために発表をするのか」という明確な目的がなく，あったとしても「相手に伝える」ということに終始してしまっていたということである。おそらく，当初は生徒にとって英語を使って自分のことを他者，とりわけネイティブである ALT の先生に伝えるという目的には大きな価値があったのだろう。外国語で自分の言いたいことをどう表現するかという，これまでになかった思考を働かせることができた。しかし，目標が次第に達成されていくと，話すテーマが変わったとしても，「伝える」とい

う目的が同じであるために，徐々に似たような思考の繰り返しとなってしまい，活動も面白みを失っていったと考えられる。次第に，スピーチが思考力や判断力を発揮する必要のない活動になってしまっていたのである。

これらを踏まえ，２学期終了後に感じた課題のうち，①はマンネリ化を防ぐというよりは，生徒が思考力・判断力を働かせる機会を多く含むことが重要だと捉えた。さらに，思考力・判断力を働かせつつ表現活動を行うことができれば，SGH としての当校の研究主題である「グローバルリーダー・地方創生リーダーに求められる能力・態度の育成」にもつながるのではないかとも考えた。

結果的に，以下の①～③の課題を持って，中学２年生の「話すこと」の活動を考えていくことになった。

①生徒の思考力・判断力を育む活動
②デリバリースキルの向上
③費用対効果の高いスピーチ活動

３．思考力・判断力・表現力を育む活動

思考力・判断力・表現力の育成が大きく叫ばれるようになったのは，現行の中学校学習指導要領（平成 20 年３月改訂）への改訂が行われた時である。この改訂の経緯には，PISA 調査から思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題，知識・技能を活用する問題に課題があることが明らかになったことや，知識基盤社会化やグローバル化が進む中で「生きる力」を育むことを目指す動きが高まったことあった。

それでは，具体的にどのような活動が「思考力・判断力・表現力」を育む活動となり得るのか。平成 20 年の中央教育審議会答申（「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」）では，次のように述べられている。「知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等をはぐくむためには，例えば，以下のような学習活動が重要であると考えた。このような活動を各教科において行うことが，思考力・判断力・表現力等の育成にとって不可欠である。」と述べられ，そこに挙げられている「以下のような学習活動」とは次のようなものであった。

⑴体験から感じ取ったことを表現する
⑵事実を正確に理解し伝達する
⑶概念・法則・意図などを解釈し，説明したり活用したりする
⑷情報を分析・評価し，論述する
⑸課題について構想を立て実践し，評価・改善する
⑹互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させる

このような活動を含めつつ,デリバリースキルの向上と，生徒の準備が最大限生かされる「費用対効果が高く」なるような単元を目指し，中学２年生で実践を行った。

４．中学２年生での実践

４．１　単元の概要

前述の①～③の課題を克服すべく，平成 26 年 10 月～12 月にかけて，当校中学２年生を対象に「プレゼンテーション活動を取り入れ，思考力・判断力・表現力を育む英語授業」の実践を行った。使用教科書は NEW CROWN ２ ENGLISH SERIES New Edition で，Lesson 7 Presentation の単元を用いた。単元の初期の段階で，生徒には目標と発表，評価について以下のように提示した。

目標
クラスで人気のあるものについて，グループで調査・考察をし，Nick 先生が最も興味深いと思うようなプレゼンテーションを行う。
発表方法
・プレゼン原稿の語数は 150 語程度，発表時間は２分以内とする。
・グループ発表（11/24 木）では役割分担を行うが，一人少なくとも 25 語は話すこと。
・パワーポイントで作成したスライド（1~4 枚）を用いること。
・今回は表現力を身に付けることが目標の一つなので，スライドにアニメーション効果は用いないこととする。
評価方法
１．グループ評価
本番の発表時 Nick 先生と日本人教師により以下の基準で行う。
・Contents（調査に基づいて，十分な考察がなされているか。）
・Delivery（話し方。個人評価の①～④にあたるもの。）
・Visual Aids（スライドが効果的に使用。）
・Language（文法や語彙の適切な使用・正しい発音。）
・Attractiveness（Nick 先生の興味を引くようなものであるか。
２．個人評価
グループ発表よりも後の日に，一人ずつ自分のグループのスライドと原稿を用いて行うプレゼンテーションのパフォーマンスを録画し，評価します。評価基準は以下のとおり。
①Eye Contact（適切なアイコンタクトができているか）
②Voice（声の大きさ，聞き取りやすさ）
③Stress, Intonation, Pause（強弱，抑揚，間の取り方の工夫）
④Gestures（効果的な身振りを用いているか）
⑤Pronunciation（発音）

教科書ではクラスでのアンケートをもとにプレゼンテーションを個人で行うという内容になっていたが，本単元ではいくつかの変更を加えた。まず，ALT を聞き手に設定し，彼にとって興味深いプレゼンテーションを行うことを目標にした。また，ALT の興味・関心を知るために，ALT が書いたプロフィールと自己紹介メッセージを読んだ上で，英語でインタビューを行う活動も加えた。

一連の活動は，グループで協働して行う。グループは，40 人クラスで４人×10 班とし（41 人クラスは１班が５人となる），出席番号で割り振り，各班１人をリーダーとした。４人という人数は，１人１人が責任を持ち，話し合いにも積極的に関わるには適切であったように思う。グループの発表時間は２分以内としたが，質疑応答や交替の時間も含めると１班に４分ほどかかるため，グループ発表を１時間の授業で行うにはちょうどよい。

４．２　単元計画

単元計画は以下のとおりである。

単元計画	実施日
第１時：単元の目標理解・教科書本文の内容理解 ・単元の最後に，英語でプレゼンテーションを行うことを確認 ・GET Part１～３の内容理解（新出語句の練習，リスニングによる T or F，Questions and Answers など）	10/31(月)
第２時：言語材料の導入と練習 ・文法事項の確認（比較級・最上級） ・教科書 Drill, Practice ・教科書本文を用いたディクテーションなど	11/1 (火)
第３時：発表準備①・Delivery 練習① ・グループ分け ・Posture, Eye Contact, Voice Inflection 練習 ・プレゼンテーション活動についての要項を配布 →目標，今後の日程，発表の方法，評価方法の確認 ・ALT の Profile をグループで読解	11/4(金)
第４時：USE Speak・発表準備② ・USE Speak のプレゼンテーションの分析 ・ALT へのインタビュー準備（Profile を参考に）	11/7(月)
第５時：USE Read の内容理解・発表準備③ ・USE Read 内容理解（ワークシート） ・ALT へのインタビュー準備の続き	11/14(月)
第６時：発表準備④（情報語学演習室） ・ALT へのインタビュー実施（各班４分） ・クラスで行うアンケートの作成	11/17(木) (TT)
第７時：発表準備⑤ ・アンケート実施（各班の持ち時間は４分），分析	11/18(金)
第８時：発表準備⑥（情報語学演習室） ・アンケート分析 ・発表原稿とスライドの作成	11/21(月)
第９時：発表準備⑦（情報語学演習室） ・発表原稿とスライドの作成の続き	11/22(火)
第 10 時：Delivery 練習②（教室・タブレット端末使用） ・Posture, Gesture 練習　・Voice Inflection 練習 ・USE Read 本文を用いてプレゼン練習，相互評価	11/24(木)
第 11 時：中間報告会（教室・タブレット端末使用） ・Posture, Gesture 練習　・Voice Inflection 練習 ・各グループ内での発表練習 ・２つのグループ間で発表・相互評価	11/25(金) (公開授業)
第 12 時：発表準備⑧ ・前時の評価やフィードバックをもとに，発表原稿とスライドの手直し及び発表練習	11/28(月)
第 13 時：グループ発表 ・グループによる発表（各班質疑応答を含めて４分）	12/1(木) (TT)
第 14 時：個人発表（情報語学室・ビデオカメラ利用） ・個人のパフォーマンステスト（自分の班の発表原稿とスライドを用いて行う）	12/16(金)

2015 年度の中学２年生は，週４回英語の授業があり，２週間に１時間のみ，ALT がティームティーチング（以下，TT）で授業に入る。単元を通して２回 TT があるが，最初の１回はグループでのインタビューを受けてもらい，もう１回はグループ発表日に評価を依頼した。その他の時間で，教科書の内容を扱ったり，発表技能の練習やプレゼンテーションの準備を進めたりした。教科書の内容理解を効率よく行うために，事前に予習ノート作り（Part 1~3, USE Read の語句調べ，本文とその日本語訳を書いてくる）を課題として取り組ませた。

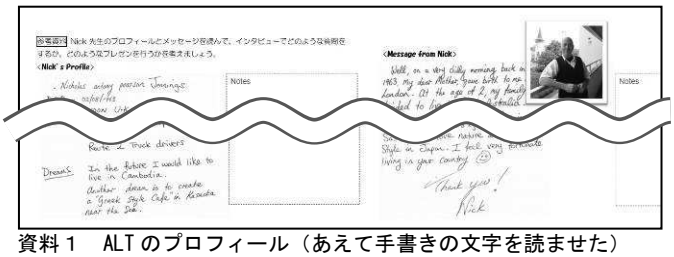
４．３　思考力・判断力を育む活動の実践

１年生でのスピーチ活動の実践を通して見えきた①～③の課題を克服する手立ては次のとおりである。

まず①の「生徒の思考力・判断力を育む活動」という課題に対する手立てについてであるが，平成 20 年の中央教育審議会答申で述べられていた（１）～（６）の学習活動（前頁参照）のうち，今回の単元では，（２）～（６）のような活動として以下のような活動を含め，思考力や判断力を必要とする活動として位置づけた。

(2)クラスでのアンケート結果を集計・分析し，スライドを作成して発表する。（第７時～）
(3)学んだ英語を活用して，ALT のプロフィールを読み解き，さらに情報を得るために英語でインタビューを行う。（第３～６時）
(4) インタビューで得た情報やアンケート結果を分析し，ALT にとって興味深いプレゼンテーションを考える。（第６～９時）
(5)・聞き手である ALT にとって興味深いプレゼンテーションの内容や，伝わりやすく興味を引くような発表の仕方を考える。
・グループ内や他グループへの発表練習を行い，自己評価，他者からの評価を踏まえて，プレゼンテーションを改善する。（第 10～12 時）
(6) グループでプレゼンテーションに向けて計画を立て，役割分担，教え合い等を行う。（第３～13 時）

実際の授業では，自分たちとは異なる文化的背景をもつ ALT の興味･関心について知るという目的を達成すべく，生徒は ALT のプロフィール（資料１）の読解や，インタビュー活動（写真３）などに楽しみながら意欲的に取り組んでいた。インタビューの質問やアンケート内容を作成したり（資料２，３），プレゼンテーションのテーマ（資料４）を決定する際には，グループで頭を悩ませながらも，意見を出し合う様子が見られた。最終的にはどのグループもテーマを決定し，協力してスライドや原稿の作成（写真４）に取り組んでいた。



資料１　ALT のプロフィール（あえて手書きの文字を読ませた）

Interview Sheet
・Why do you want to go to Cambodia?
（理由）カンボジアを将来行きたいところに選ぶのはなぜか疑問に思ったから。
・Why do you fear Route 2 truck drivers?
（理由）トラック運転手を恐れるのはなぜか分からなかったため。

資料２　生徒が考えた質問事項（抜粋）

Questionnaire
・If you emigrate, where do you want to emigrate?
①Africa ②Europe ③Asia ④North America
⑤South America ⑥Oceania
1st [ ] 2nd [ ] 3rd [ ]
Reason：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

資料３　あるグループのクラスアンケート

Presentation Planning Sheet
テーマ：Where do you want to emigrate?
テーマ設定の理由：
Nick 先生がカンボジアに行きたいのが，安全，物価などが理由だったので，クラスの人がどこにどんな理由で移住したいのか気になり，Nick 先生に伝えたいから。

資料４　あるグループのテーマ設定シート

写真３　ALT へのインタビューの様子
（後ろには次のグループが待機し，観察している）

写真４　情報語学教室でのスライド作成の様子

４．４　表現力を育む活動の実践

４．４．１　デリバリースキルの向上

デリバリースキルについては Harrington & LeBeau (2009)の Speaking of Speech という DVD 教材を参考に，Posture, Voice Infliction（声の抑揚）, Eye Contact, Gesture といった４つの下位技能に分け，それぞれを意識して練習する機会を設けた（第３, 10, 11 時）。Speaking of Speech には，プレゼンテーションの良い例と悪い例の動画が複数収録され，下位技能ごとにイラストと音声を利用しながら練習をするページもあるので，中学生にとっても視覚的にわかりやく，プレゼンテーションの準備段階に適した教材となっている。

４．４．２　費用対効果の高いスピーチ活動

本単元では中間報告会として，タブレット端末（iPad）を活用し，グループ間で中間報告と相互評価を行う機会を設けた。iPad の操作に生徒が戸惑うことも予測されたため，iPad の操作練習とデリバリーの練習も兼ねて，教科書 USE Read の本文（メイリンという登場人物が，通信手段の人気度についてプレゼンテーションを行うという内容）とグラフを用いた発表練習も行った（第 10 時）。iPad は予備も含めて 12 台準備し，事前にオンラインストレージサービスの Dropbox を利用して，教科書 USE Read のグラフや，各班のスライドを保存しておいた。

中間報告会では，まずグループ内で Voice Inflection を意識した練習と，プレゼンテーションの通し練習を行った。その後，２つのグループをペアにして，交替で発表と評価を行った。発表をする班は，iPad でスライドを提示しながら，順番にプレゼンテーションを行う。評価をする班は，iPad を使って相手班のプレゼンテーションの動画撮影も行う。２班とも終わったら，お互いに撮影した動画を交換して振り返りに活用する（第 11 時）。こうすることで，ALT への発表本番（第 13 時，写真○）の前に，少なくとも授業内だけで３回，生徒は準備した原稿で発表練習を行う事ができる。また，相手班からの評価や撮影してもらった動画をその場で確認参照しながら振り返りを行うことができる（写真５，資料５）。

写真５　中間報告会の様子

・もっと声を大きくして強弱をはっきりさせるべきだと思った。ジェスチャーやアイコンタクトはみんなからの評価も良かったので，強弱に気をつけた練習をしたい。
・自分たちの撮られた映像を見て，アイコンタクトができていなかったなと思った。Evaluation Sheet にも書かれていて，本番までには練習して改善していきたい。

資料５　中間報告会後の生徒の振り返りより抜粋

振り返りのコメントには，デリバリースキルの向上が実感されていることや，できていない部分を客観的に認識して本番の発表でできるようにしたいという意欲が伝わってくるものが多かった。したがって，本番の発表（写真６）前に，グループでの相互評価やタブレット端末での動画撮影を利用した自己評価が表現力の向上に効果的であることがわかる。

写真６　グループ発表本番の様子

５．成果と課題

５．１　本実践における成果

本実践では，プレゼンテーションを最終目標とし，それを達成するためのプロセスを通して思考力・判断力・表現力を育成する単元の在り方を提案した。

初めにプレゼンテーションの目的を明示することで，生徒は目標に向かって意欲的に思考・判断し，表現力を高めていった。また，限られた ALT との TT の機会を最大限に活用し，思考力・判断力・表現力を育む活動につなげることもできた。さらには，タブレット端末での動画撮影やグループ間相互評価を中間発表に取り入れることで，生徒が自分のパフォーマンスを客観視し，効果的，効率的に表現力の向上を図れる活動も実現できた。

結果として，単元を終えた後の２年生 12 月の調査では，「話すこと」が楽しいと感じる生徒が増えた。思考力や判断力を働かせる活動や，グループでの協働に価値や意義を見出し，意欲的に取り組めたことを示唆しているのではないだろうか（表４）。

Q. 英語学習で楽しいと思うものは何ですか。（複数解答）

	１年生 3 月		２年生 12 月
話や会話を読んで何についてのことなのか知ること。	57.9%	→	62.1%
話や会話を聞いて何についてのことなのか知ること。	52.6%	→	50.0%
自分のことやいろいろなことを書いて人に知らせること。	22.8%	→	21.6%
自分のことやいろいろなことを話して人に知らせること。	**36.0%**	→	46.6%
特には思いつかない。	12.3%	→	6.9%
回答数	114 名		116 名

表４

５．２　本実践を通して見えてきた課題

多くのことが新しい試みであったため，実践を通して見えてきた課題もたくさんあった。公開授業でいただいた指導助言と自身の振り返りも踏まえて，今後の改善の方向性を以下に示す。

・評価の方法や観点については提示し，教員による評価も行ったが，それをルーブリックのようにして配布できれば，生徒はそれを参照しながら段階的に達成度を味わうこともでき，評価の基準としても利用できる。

・全てのグループの質問や原稿を添削することはしなかったため（休み時間等に質問に来たグループには対応した），インタビューでの質問や，プレゼンテーション原稿には文法的な誤りが散見された。教員が時間を割いて添削を行うか，授業の中に生徒同士が原稿を添削し合う機会を設ける等の工夫をする必要がある。

・本実践を通して，筆者の観察からグループワークが個人へ良い影響を与えることは確信しているが，具体的にグループの学びが個人の英語力にどのように貢献していくかの関係性についても，いずれ検証したい。

・ALT へのインタビュー活動は，さらなる学びの機会となる。例えば，「話すこと（やりとり）」の場として，相手の返答に相づちを打つ，会話を自然に続けるなどの表現力を養うことができる。また，相手に失礼のないインタビューを心がける，インタビュー後に感謝の気持ちを表す，自分とは異なる文化的背景を持つ人への理解を深めるなど，他者を尊重する人間性を養う機会にもなる。このような態度を養うことは，新学習指導要領（平成 29 年度３月公示）の中で，新しい時代に必要となる資質･能力の一つとして挙げられている「学びに向かう力・人間性」の涵養にもつながる。

６．おわりに

頻繁に今回の実践のような単元を実施するのは教員にとって負担が大きいかもしれない。しかし，生徒の内在する力や学ぶ意欲を引き出す「プロジェクト学習」のような位置づけで，１年に１回取り組むだけでも得られる成果は大きいだろう。

平成 29 年８月の教育課程部会の報告（「外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて」）によると，外国語教育においては「社会や世界との関わりの中で,外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し，外国語を聞いたり読んだりすることを通じて様々な事象等を捉え，多様な人との対話の中で，情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現して伝え合うことで思考していくこと」が求められている。つまり，身につけた知識や技術を実際に活用することのできる「コミュニケーションの場」を，いかにして生徒に与えることができるかが問われている。今回の実践が，そのような場を提供する一つのたたき台にでもなれば幸いである。

参考文献

・中央教育審議会（2017）『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』

・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（2017）『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（報告）』

・文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説』

・Harrington, D. & LeBeau, C.(2009) *Speaking of Speech (New Edition)*. Macmillan Education.

・中央教育審議会（2008）『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）』

・伊藤治己（2008）『アウトプット重視の英語授業』：教育出版